ひかりのその

社会福祉法人雲柱社
光の園保育学校
２０１７年　５月

育ちを信じる

新緑が美しい季節。保育園の桜は葉桜となり、園庭で遊ぶ子ども達にこいのぼりとみどりの爽やかな風をそよがせて、何ともほのぼのとした絵になる風景です。

毎年クラスの特色やカラーがいろいろあって、特に今年のちゅうりっぷ組３歳児は個性派揃い（？）で面白いクラスなのですが、一方で行事の時に座ってお話を聞けるのか心配していました。ところが、４月のお誕生会では、初めて幼児クラスとして１階に降りてきて、ゆり組ばら組と一緒に30分以上もきちんと座って参加していられたのです！礼拝も誕生児紹介も、職員の劇もよく集中して静かに観ることが出来て、とてもびっくりしました。昨年の誕生会や進級式の時はあっちでおしゃべり、こっちでトラブルとじっと座っていることが難しかったのに、子どもの成長って本当に凄いと感激しました。これはどの子も「大きくなった」という自覚から、特に年長ゆり組や年中ばら組のかっこいい姿が、３歳児に影響しているのですね。誕生会が始まる時に、静かに座って待っているお兄さんお姉さんの空気を感じて、この場所は静かにするのだという意識が芽生えたのです。大人が言っても聞かないけれど、お兄さんお姉さんみたいになりたいという憧れの気持ちが動いたのでしょう。ちゅうりっぷ組の担任も親馬鹿ならぬ担任馬鹿（？）ぶりを発揮して「やればできる子ども達」「本番に強い子ども達なんだ！」と言っておりました。

思い起こせば、今年のゆり組さんも、２．３歳児クラスの時はパワー全開で大人が後を追いかけて回るような感じでしたよね。今では立派な光の園の顔です。

子どもの育ちの力を、信じて待つことの大切さを改めて実感しました。

園長　三幣典子

『六つになった』

一つのときは、なにもかもはじめてだった。
二つのときは、ぼくは　まるっきり　しんまいだった。
三つのとき、ぼくは　やっと　ぼくになった。
四つのとき、　ぼくは　おおきくなりたかった。
五つのときには　なにからなにまで　おもしろかった。
今は六つで、ぼくは　ありったけ　おりこうです。
だから、いつまでも　六つでいたいと　ぼくは思います。（A・Aミルン）